

# SRI金融機関文書管理システムの仕組みとは

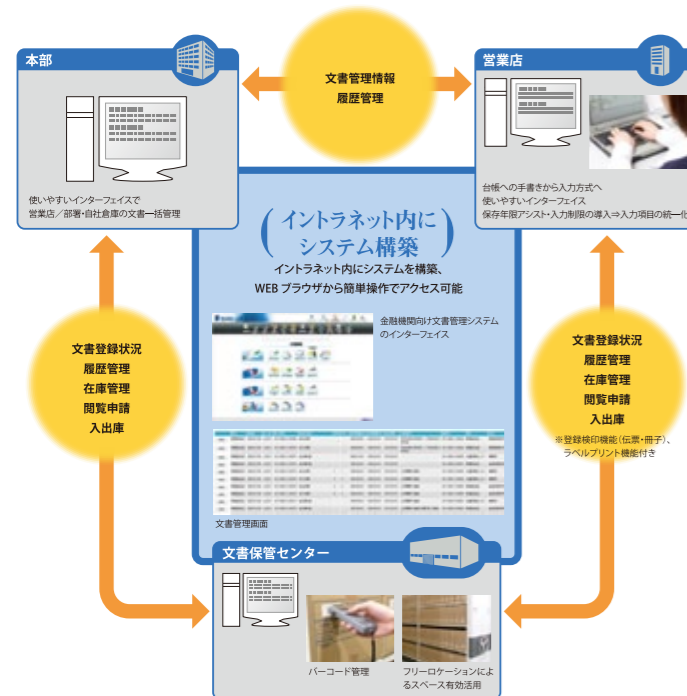
～営業店文書の作業標準化・集中化・業務効率化の追求～

(株)セキュリティサイクル研究所(以下「SRI」)は、創業以来、一貫して機密文書のみを取り扱ってきた機密文書専門管理会社であり、上場企業を中心に、多くの金融機関様と取引をさせていただいている。

ご紹介する「SRI金融機関文書管理システム」は、実際に長年専業で機密文書管理をしてきたノウハウから金融機関向けに作り込むことにより、文書の誤廃棄、紛失、営業店の文書管理体制の構築、文書管理に掛かる営業店事務量の削減に効果を発揮する。

すでに複数の地方銀行様にシステムをご採用いただ

図:金融機関向け文書管理システムの基本構成



■箱単位の場合



※「カラービット」は、ビーコア株式会社が独自で開発した自動認識技術で、バーコード、ICタグなど自動認識システムを手掛ける株式会社サトーが提供、販売しております。

ており、これからも地方銀行におけるシステム導入は進んでいくと思われる。

## SRI金融機関文書管理システムの特徴

①カスタマイズを基本とし、各行にフィットした仕組みを構築

このシステムの特徴は、柔軟なカスタマイズ設計が出来る事である。パッケージだけでは各行それぞれの課題をクリアすることは難しく、また、逆にパッケージに合わせる運用をすると現場(営業店)に無理が生じ、結果的に継続できないものになってしまう。

各行の企業風土や管理手法を踏まえた開発が継続性を高める大きなポイントである。

SRIは継続運用でき、且つ業務効率化を図れる仕組みを一緒に「創」る事が可能だ。

②バーコード、又はカラービットによる管理体制の選択  
箱単位での管理の他に、ファイル単位での管理も可能だ。従来は、バーコードによる箱単位・ファイル単位の管

■ファイル単位の場合

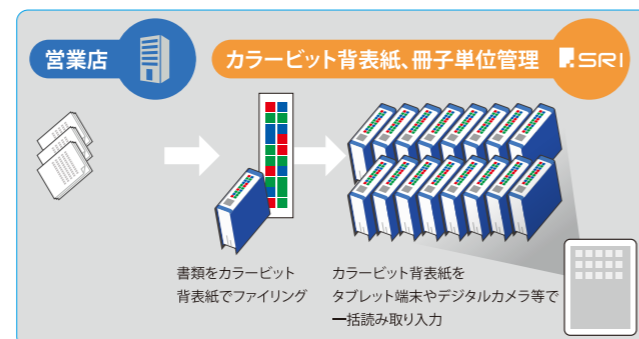
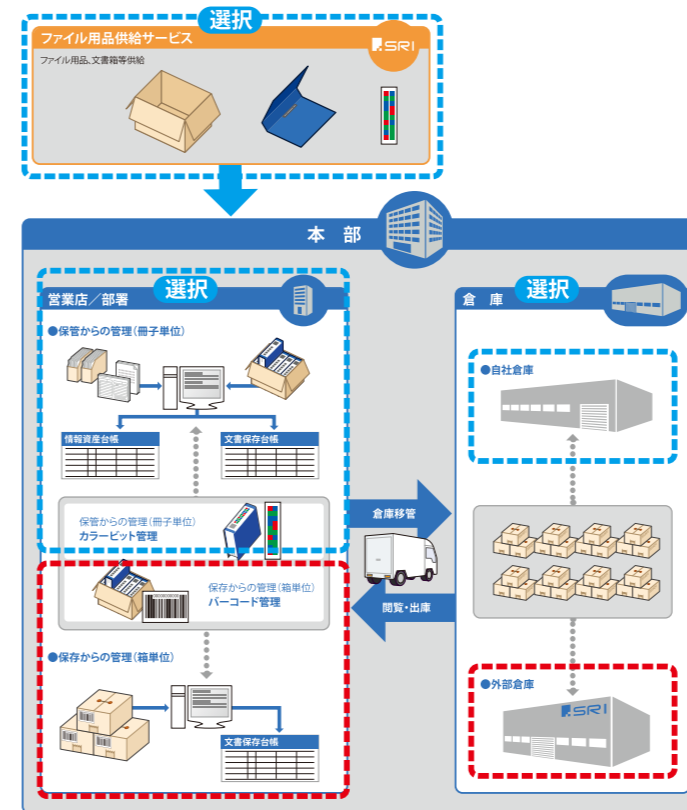


図:現在の銀行様の選択肢



理が主流であるが、ファイル単位の場合、各店へのスキャナ配布、1冊ごとの読み込みなど、棚卸作業を含めた事務手間の負担が大きかった。

SRIでは「カラービット」という新たな自動認識技術を利用し従来のバーコードによるファイル単位の非効率部分を大幅に改善した。

例えば、営業店などに配布されるタブレット端末を使用し付属の動画カメラでファイル単位の認識が可能である。

SRIでは、費用対効果の面から、「箱単位=バーコード」「ファイル単位=カラービット」として位置付けている。

③コンサルティングによるシステム連携

システム設計をするにあたり、サンプリングとして複数営業店の実施調査を行い、規定と現状管理の差を分析。

必要に応じて台帳整備や保存年限の見直し、規定整備など、各行の様々な運用課題に対し、コンサルティング支援を行う。

そのコンサルティング結果とシステムを連携させ、より効果的な仕組み創りを行っていく。

④ファイル用品供給

ファイル用品は全営業店で統一されていないことが多く、作業の平準化、統一化を進める上で大きな検討課題

でもある。SRIでは必要に応じ、毎年度末に全営業店へのファイル用品の配布も可能だ。

その際、カラービットを含むファイル背表紙等を貼付した状態で納品するので、各店は書類が発生した段階で該当のファイルに挟み込む(カラービット読み取り)だけである。各店発生する書類・量も違う事から、導入次年度以降は前年にシステム登録された書類を抽出し、無駄のないファイル用品配布ができるようになる。

ここまでいくつかシステムのポイントを述べてきたが、要約するとこの金融文書管理システムであれば、ユーザーが必要な仕組み、開発方法を組み合わせられる(選択できる)という事である。

例えば、大部分の文書は箱単位、しかし重要な一部文書についてはカラービットを使用したファイル単位管理を構築するなど。

また、第一フェーズは営業店、次に自行倉庫といった具合に切り分けてプロジェクトを進める事も可能だ。

SRIは、これからもより柔軟性に富んだ文書管理システムの開発、銀行の実情に沿った仕組み作り・機能を強化していく。



【SRI金融機関文書管理システムの導入事例】  
[http://www.sri-net.co.jp/finance/case\\_studies/](http://www.sri-net.co.jp/finance/case_studies/)